

平成29年度第5回南相馬市事務事業事前評価結果

1	事務事業名	有害鳥獣焼却施設整備事業	担当課	生活環境課
---	-------	--------------	-----	-------

事業の目的	対象	誰に、何に対して働きかけるのか ・クリーン原町センター最終処分場
	意図	対象がどのようになることがねらいなのか ・捕獲した有害鳥獣をすべて焼却処分し、埋設処理を止めることにより、最終処分場の埋め立て空き容量を確保し、クリーン原町センター最終処分場の延命化を図る。
	結果	どのような結果をもたらすのか ・クリーン原町センター最終処分場の延命化が図られる。
	結果	

手段	有害鳥獣専用の焼却炉を整備する。 用地：原町区小沢（防災集団移転元地）約1,200㎡ 焼却炉： ・年間1,500頭のイノシシを焼却できる炉（直噴バーナーによる個体の完全焼却が可能） ・高温焼却により公害物質（ダイオキシン類、悪臭物質）の無害化が可能となる炉 ・バグフィルタにより放射性物質等の捕集ができる炉	事業費（千円）	平成29年度	185,760
		平成30年度	185,760	
		平成31年度	0	
		平成32年度	0	
		平成33年度	0	
		合計	371,520	

担当課による自己評価	必要性	市民ニーズはあるか ・有害鳥獣を最終処分場に埋設処理をしていることは周辺住民の同意を得ているものではない。 ・早急に埋立処理を止め、別な方法で有害鳥獣を処理するよう要望が出されている。
	行政関与	市が積極的に関与すべき事業なのか ・有害鳥獣（イノシシ）の処分頭数が増えているのは原発事故による放射能汚染によるものとして、国が専用焼却炉を設置するよう要望しているが実施に至っていない。 ・有害鳥獣は一般廃棄物であることから、市で専用の焼却炉整備を実施する必要がある。
	有効性	どのような効果が期待されるか ・専用焼却炉を整備すれば、捕獲した個体を全て焼却処理することが可能となり、最終処分場の空き容量の確保が期待できる。
	その他	優先性等 ・このまま埋設処理を続けると平成34年度には最終処分場の空き容量がなくなる。 ・最終処分場近隣住民も有害鳥獣埋設処理について反対しており、緊急的に対応する必要がある。
	総合評価	必要性・有効性・優先性を認める。

委員会評価	総合評価	必要性・有効性・優先性を認める。
	付帯意見	なし。

対応方針	議会における予算成立後、計画に沿って事業を実施する。 （平成29年12月議会に予算計上（2ヶ年の継続費））
------	--